

# 学校運営協議会だより

令和5年2月27日発行 第3号 発行元：伊達市立大滝徳舜警学校

令和5年2月21日(火)に、大滝徳舜警学校会議室にて、委員8名、事務局員2名の参加の下、今年度第3回学校運営協議会を開催しました。大滝徳舜警学校の学力・体力の分析結果報告や学校評価アンケートの分析報告、令和5年度学校経営方針についてなど、質疑、意見交流がなされました。

主な報告・協議の内容は以下の通りです。

## 1 学力・体力について

伊達市学力テストの分析について国語は、1～4年生まで全国平均を上回る正答率、5年生以上で正答率が下がっていく傾向、7年生は、全国平均を大きく上回る。算数・数学は、前期課程は、概ね全国平均と同等あるいはやや下回る正答率、後期課程は全国平均より上回るあるいは同等程度。理科、4年生以上で全国平均を大幅に上回ってる。

体力テストの分析では、握力や立ち幅跳びの得点が平均以上の学年が多い。課題としては柔軟性、持久力の低下が懸念される。

## 2 学校評価アンケート結果報告について

今年度は学校評価アンケートを文科省から示されている「学校評価ガイドライン」にそって変更した旨を説明した。また、昨年度まで授業評価についてもふくまれたが、長期休業前にアンケートをすることで授業改善に取り組んでいることも改めて理解していただいた。

以下はグループ協議での意見。

・子どもたちを見ていると時間がないように思える。遊ぶ時間がない。勉強以外の魅力ある活動が子どもたちにとってないのではないか。

・体力向上については、少人数の学校では取り組みが難しいと感じている。

・課題や活動が多すぎるように感じる。それを少ない人数で対応していかなければならないためにプレッシャーに感じている子もいると思う。

・「こうしてはいけない」ということが多くて、子ども自身が遊びを想像したり、関わりの中で学んだりする経験が足りないように感じる。

## 3 令和5年度 学校経営方針

育成を目指す資質・能力を「『ふるさとに誇りをもち、たくましく未来を生きる児童生徒』を育むために」とし、“自分の考えを伝える力”、“自分で考え学ぶ力”、“人を大切する力”、“人を大切する力”、“やり抜く力”とした。そのために、職職員ビジョンとして「大滝の児童生徒の成長を第一に考え、自らも成長のためのチャレンジを怠らない教職員」、学校組織ビジョンとして「大滝のよさや伝統を大切にしながらも時代のニーズに合わせて変化し続ける学校」とした。これを基盤として、次年度の基本方針を「みんなが笑顔で安心できる学校づくり」という説明があり、承認を得ることとなった。

質疑応答では、「だて学」についての質問があった。地域について体験を通して学び、その学びを地域にどのように還元していくかということを確認した。あわせて、参観日が「だて学」の授業ということを案内した。